

2 図上演習の狙い（目的）に合った評価ができる演習計画の作成

ここで言う「評価ができるような図上演習」というのは、本部要員の能力や組織の対応能力の向上を目的として実施される、シミュレーション型図上演習のようなものが主な対象になる。図6.1.2は、演習目的から、それを具体化した主要演習項目（目標）、それを達成するための演習の枠組みの検討、主要演習項目がどの程度出来たかを検証するための評価計画、それを容易にするための状況付与の関係を表したものである。災害対策本部の「初動対応能力の向上」を演習目的とするのであれば、それが達成されるような演習のやり方、評価要領、状況の付与などについて工夫しなければならない。

3 評価計画の作成

評価を適切に実施するためには、適切な評価の計画がなくてはならない。このため、演習目的に基づき、主要な演習項目（演習の重視項目）についての評価項目を定め、チェックリストを作り、評価員を配置し、評価に関する事前の教育などを行う、そのような計画を作成することが必要である。

なお、静岡県では、「東海地震対応シナリオ」を作っている。これは、地震発生後の県内全般の状況、県災害対策本部の主な措置事項、各部各班等が実施すべき業務を、地震発生からの時間の推移に応じてA3版用紙に展開したものである。勤務時間外に突発的に大地震が発生した場合の、3～4時間

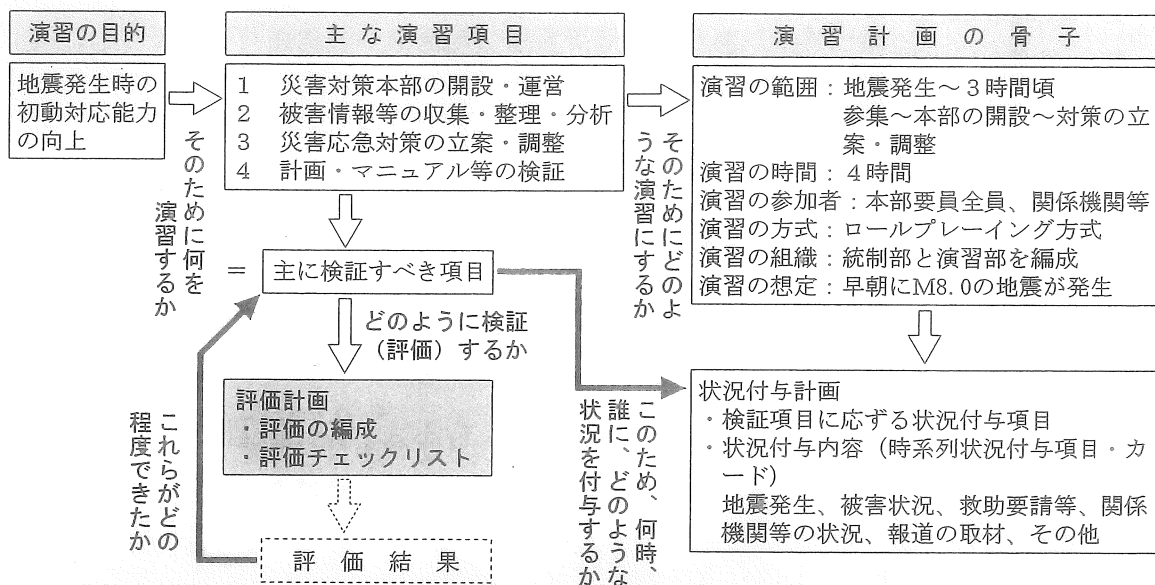


図 6.1.2 図上演習の目的と演習計画、評価計画の関係